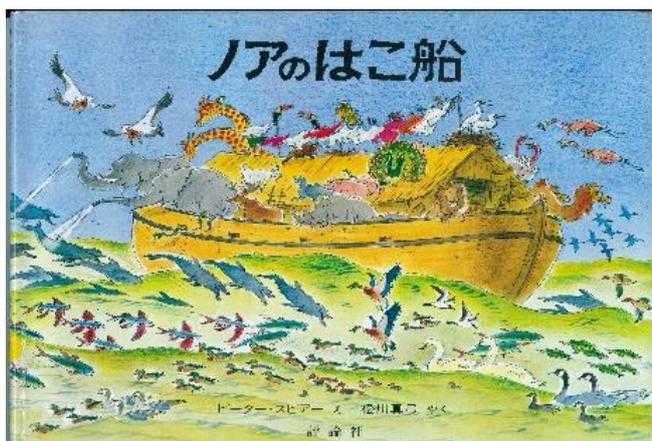


「ノアのはこ船」



ピーター・スピアー 作・絵
松川 真弓 訳
評論社 1986

雨は降り続けた。
これはずっと昔の旧約聖書のお話です

もうすぐ雨の季節になります。みんなが幼稚園に戻ってくるのを先生たちも、たくさんの絵本たちも待っています。みんなどうしていますか？

今回の本は、旧約聖書の中の「ノアの箱舟」物語を題材にしています。

本をめくるとすぐ、

「…ノアはあらゆるごとしりめに神のめぐみを受けてくらししていた。」

と始まります。タイトルページをめくると1ページだけ文字のページがあって、歌うような「詩」で物語の全てがここで語られてしまいます。後は絵です。

「…そしてまた、ぶどうづくりにはげむのだった。」

で終わるまで、じっくり絵で読んでください。ノアって誰か知らなくても、罪とかすくいとかわからなくても、ピーターさんの想像力を借りて、じっくり絵を楽しみながら物語を体験してください。ノアの家族は箱舟の中で、沢山の動物たちとどんなふうにごろごりしたのかな。動物の鳴き声や匂いに悩まされたかもね。怖かったかもね。悲しかったかもね。だれかがみんなを笑わせたかもね。わかったことも、忘れたことも、思い出すことも、いろんなことがあっただろうね。

二つの「…」は大切です。

古代メソポタミアでは洪水が何度も起こったようで、旧約聖書以外にも大洪水を伝える碑等が残っています。人間の力ではかなわない自然界の出来事に出会ったとき、なぜこんなことが起こるのか？と私たちは考えてしまいます。自然の恵みを頂いて平穏に暮らしているときには、なぜ？と考えもせず、感謝も忘れてるのに。

訳者の松川さんが旧約聖書「ノアの箱舟」物語のあらすじをカバーに書いてくれています。

旧約聖書には神さまと人の物語が語られていますから「…」をさぐるためにもぜひ直接、聖書を手に取ってみてください。おもしろいですよ、神さまのイメージが変わるかも。

幼稚園には「ノアの箱舟」の絵本が幾つもあります。聖書の物語を小さな子どもたちに伝えたいと思った人がたくさんいたという事ですね。

みんなが絵本に囲まれる日が早く来ますように。

2020年5月22日 梅崎啓子